復興庁
Reconstruction Agency

令和4年12月16日発行
宮城復興局気仙沼支所
気仙沼市笹が陣3－5
気仙沼市シルバー人材センター2F

つちおと

第86号

10/1 土 道の駅「さんさん南三陸」グランドオープン

10月1日(土)、南三陸町の東日本大震災伝承館「南三陸311メモリアル」が開館。本伝承館と隣接し、既に営業している「さんさん商店街」とあわせて、道の駅「さんさん南三陸」としてグランドオープンしました。

開所式では、佐藤仁町長から「311メモリアル」の開館は、本町が命を思う町であることへの一歩だとの挨拶に続き、秋葉賢也復興大臣、小野寺五典衆議院議員、村井嘉浩知事などが祝辞を述べました。また、グランドデザインを描いた建築家の隈研吾氏がデザインについて説明。隈研吾氏の設計は「311メモリアル」、「さんさん商店街」と復興祈念公園を結ぶ「中橋」の三つで一体となるよう設計されているとのことです。その後、テープカットでオープンを祝い、伝承館を内覧。また、大森創作太鼓の皆さんが演奏を披露し、盛り上げておりました。

「311メモリアル」は、震災時の避難についての住民証言を視聴できるシアターで、防災と避難の大切さを学べる貴重な施設となっています。また、世界的彫刻家クリスチャン・ボルタンスキー氏が生前、本施設のために制作した遺作も展示されています。ぜひお越し下さい。

～　9月14日　秋葉復興大臣　南三陸町震災復興祈念公園訪問　～

９月１４日（水）、秋葉復興大臣と小島副大臣が、就任後初めて南三陸町の東日本大震災復興祈念公園を訪れ、「祈りの丘」で献花し、犠牲者のご冥福を祈りました。その後、旧防災対策庁舎前で、佐藤仁町長から復興状況などのお話をうかがいました。

記者会見を開く秋葉復興大臣(中央)と小島副大臣(左),佐藤町長(右)

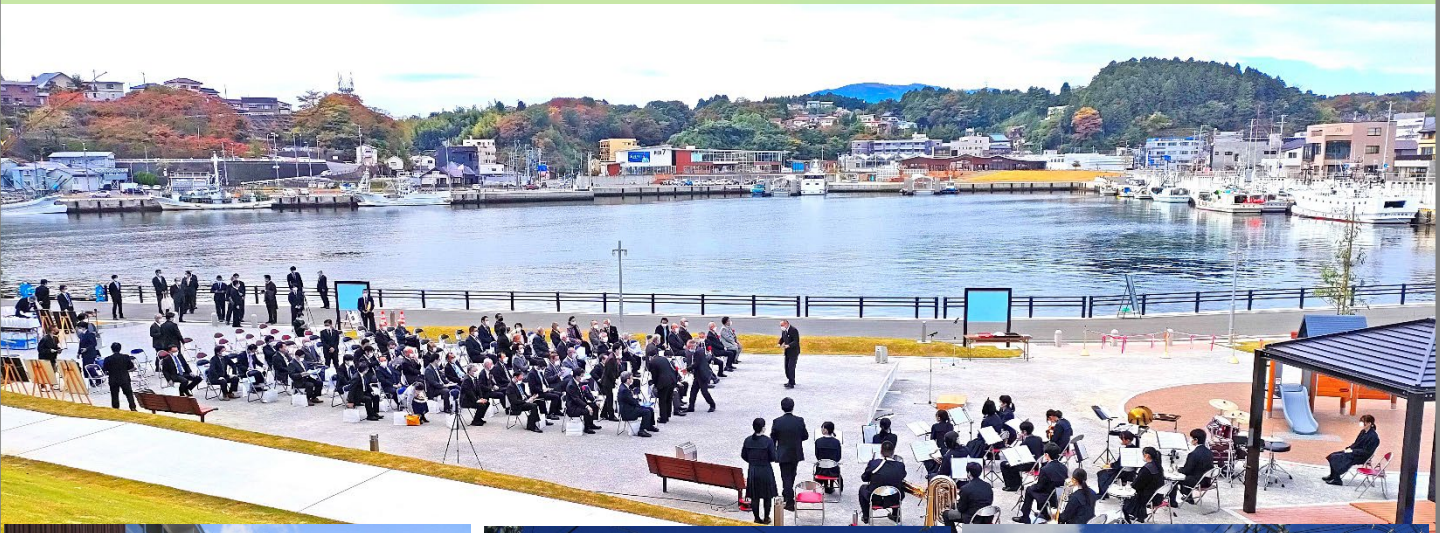
その後、１０月１日（土）にオープン予定の道の駅「さんさん南三陸」の伝承館「３１１メモリアル」前で記者会見を開き、「この道の駅が震災の風化防止と教訓の継承、さらにはにぎわいの拠点となるよう期待している。」と話し、本日視察した仙台市、女川町、南三陸町についての感想を聞かれると、「まちづくりは着実に復興を遂げていると実感する一方で、人口流出等の課題もあるが、引き続きしっかり寄り添って行きたい。また風評対策や風化対策をしっかりやっていきたい」と決意を述べました。

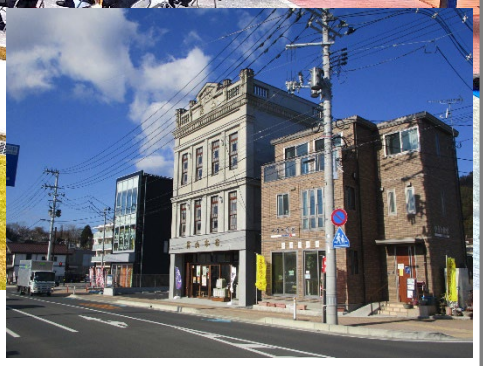
～　9月28日　秋葉復興大臣　気仙沼市復興祈念公園訪問　～

９月２８日（水）、秋葉復興大臣が、就任後初めて菅原気仙沼市長を訪問し、陣山の復興祈念公園を訪れ、未来の安寧を祈る「祈りの帆」で献花し、犠牲者のご冥福を祈りました。

また、菅原茂市長の案内で犠牲者銘板や頂上から見える気仙沼漁港や魚町・南町地区、鹿折地区の被災市街地復興土地区画整理事業箇所を眺めながら、復興状況などお話をうかがいました。

～　10月22日　魚町・南町地区被災市街地復興土地区画整理事業竣工式　～





気仙沼市が進めてきた魚町・南町地区被災市街地復興土地区画整理事業の竣工式が、10月22日（土）に神明崎公園で開催されました。式典には約120人が出席し、大震災で亡くなられた方々への黙祷、菅原茂気仙沼市長の挨拶で始まり、内湾地区復興まちづくり協議会の菅原昭彦会長より地域住民と行政とが真剣に議論して復興まちづくりに取り組んだ経緯の報告や、関係者への感謝状贈呈、その後、テープカットが行われ、気仙沼高等学校吹奏楽部による「港町ブルース」等の演奏で幕を閉じました。

魚町・港町を中心とした「内湾地区」は気仙沼湾の湾奥部で、気仙沼の顔として、古くから港町の雰囲気を伝える街並みが形成され、文化の発信拠点でした。震災後は、港町に相応しい景観の保全と安全性の両立目指し、内湾地区復興まちづくり協議会を中心に勉強会が開催され、防潮堤を観光商業施設に組み込む工夫により、魅力的なウォーターフロントの開発整備につなげました。また、集客や交流人口の拡大の拠点となる賑わい施設が集積しており、観光船の発着場や昔ながらの老舗が集まる港町らしさを残した新たな気仙沼の顔としての街並みとなっています。

気仙沼市の被災市街地復興土地区画整理事業は、鹿折、南気仙沼、松崎片浜地区が既に竣工しており、本地区が竣工したことにより、2013年3月から実施してきた市内4地区の事業が全て完了となりました。

土地区画整理事業が完了した魚町・南町地区

とぴっくす

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）
復興庁 宮城復興局 気仙沼支所　　電話　0226－23－5301

～　11月11日　気仙沼市の杉ノ下地区東日本大震災慰霊碑前にて被災時のお話を伺いました　～

杉ノ下地区東日本大震災慰霊碑前でお話しいただいた小野寺敬子さん（右）

11月11日（金）、気仙沼市階上地区の東日本大震災遺構・伝承館近くにある杉ノ下地区東日本大震災慰霊碑前にて、語り部活動をしている小野寺敬子さんからお話を伺いました。杉ノ下地区は地域住民同士のまとまりが良く、津波が来たときはここ（現在の慰霊碑周辺の高台）に避難しようと話をしていた。これまでの津波では浸水しなかったために避難場所にも指定されていたが、実際には津波が来襲し、そこに避難した方々を含め、地区住民の約1/3にあたる93名の尊い命が失われてしまった。

月命日にあたる11日は11時と14時から、今でも慰霊碑の前に来て、希望者がいれば語り部の仕事をしている。お花の手入れや除草なども遺族会で行っているが、高齢化が進んできたため難しくなってきている。役員も発足当時の半数になっているので、遺族会の解散も考えているとのことでした。元自治会長の奥様の三浦祝子さんからも、実際に津波に巻き込まれ偶然にも生き残ったこと、当時の状況など、大変貴重なお話しを伺い震災の記憶と教訓を語り継いでいくことの重要性と困難さを実感しました。

慰霊碑前での今年度の活動は今回で終わりで、次回は令和5年4月11日から再開する予定とのことです。

～　10月4日　南三陸町の志津川東第２復興住宅の中央広場で「走らない大運動会」が開催されました～

１０月４日（火）、南三陸町の志津川東第２復興住宅の中央広場で地域住民と幼稚園児による「走らない大運動会」が開かれました。結の里イベント実行委員会が主催し、志津川高校の生徒がサポート役で参加、マスクの色で紅組・白組・青組・黄組に分かれ、「除菌リレー」という名の風船割り競争や幼稚園児の組体操等が行われ、最後は二球入魂玉入れで、走らずに勝敗を競いました。今回は6回目の開催で、復興住宅も含む町内各地区から約200名の皆さんが参加し親睦を深めました。復興住宅等の高齢化が進み、孤立・孤独やコミュニティ形成が被災地全体の課題となっていますが、地域の様々な年代層を巻き込んだ、他地域での好事例になると感じました。

南三陸町社会福祉協議会が運営する「結の里」は、この他、地域で展開している「みんな食堂」や、みんなの居場所としての「100円カフェ」を営業し、皆さんの声を聴いています。また、毎月いろいろなイベントやワークショップを実施しており、地域づくりの拠点となっています。

【編集後記】

今年も、あっという間にあと僅か。また、あと数か月で大震災から12年となります。被災した住宅等の移転元地は道路等の整備が終わり、少しづつ店舗等が出来てきていますが、まだ、空き地が散見される状況です。

また、心の復興や産業・生業の再生も、もう少し時間がかかりそうです。「つちおと」は気仙沼市・南三陸町の復興を、引き続き応援して行きたいと思います。

宮城復興局　気仙沼支所　山幸

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP（http://www.reconstruction.go.jp/）

→ 宮城復興局

→ 気仙沼支所だより「つちおと」